

平成 29 年度 うさみの園居宅介護支援事業所 事業報告書

1. 事業運営の概況

平成 29 年度開始当初、2 名の介護支援専門員の退職に伴い、特定事業所加算の算定を中止、担当件数も減となった。その後介護支援専門員の入れ替わりなどもあったが、7 月に特定事業所加算Ⅲを申請。さらに平成 30 年 2 月には 4 名体制となったため、3 月より特定事業所加算Ⅱを申請し、質の高いケアマネジメントが行えるよう体制を整え、積極的な受け入れをすることで、担当件数も増加した。

今年度も介護予防プランの委託や困難事例の依頼にも積極的に対応し、各地域包括支援センターや行政機関、医療機関との連携強化に努めた。

6 年に一度の事業所指定更新や 2 年に一度の県の実地指導の対応を行った。

2. 事業計画実施状況

(1) 資質向上

- ① 介護支援専門員の必須研修をはじめ、主任介護支援専門員研修や、外部の研修にも積極的に参加する機会を作り、各職員自己研鑽に励んだ。
- ② 困難事例等のケースについては、週一回の居宅会議内にて事例検討会を実施。問題の明確化や対応方法などの検討を随時行い、職員間で情報の共有を図った。また、必要に応じて地域ケア会議に参加、もしくは開催の依頼をして援助技術の向上にも努めた。
- ③ 介護報酬改定のための情報収集をし、制度理解に努められるよう随時勉強会を実施した。

(2) 設備・環境の改善

- ① 今年度も専用車 2 台の配置だったため、訪問車両の不足が生じたが、他事業部署と併用して車両を活用した。
- ② 職場環境の定期的な整備・点検を実施し随時見直しを行った。また、定期健康診断および感染予防は本体と一体で実施し、職員の健康管理にも取り組んだ。

(3) 事業の企画

- ① 社会福祉法人の職員として信頼されるよう業務に取り組み、今年度はいきいき支援相談会を本体と一体となり実施。法人理念である『地域に拓かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設』を目指し取り組みを行った。
- ② 今年度から伊東市でも総合事業が開始され、制度理解や行政機関、地域包括支援センター、各事業所とのさらなる連携強化に努めた。
- ③ 今年度は職員入れ替わりが多く、要介護認定調査の実施があまりできなかった。

(4) 事業規模の充実

- ① 前年度 2 名の退職者により特定事業所加算の算定を中止していた。今年度は職員補充を図り、平成 29 年 7 月には特定事業所加算Ⅲを算定し、平成 30 年 3 月には特定事業所加算Ⅱを算定した。
- ② 介護支援専門員として必要な知識、技術が培われるよう事業所内で勉強会を定期的実施。また外部研修(特にグループスーパービジョン)にも積極的に参加した。

(5) 会議・委員会

- ① 特定事業所として、利用者に対する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に関わる伝達などを目的とした会議を週一回開催した。
- ② 伊東市内で介護保険事業者連絡協議会(居宅部会)が年5回開催され、積極的に参加した。
- ③ 施設職員として、施設内委員会や行事にも参加し、各部署との連携に努めた。